

## 正体はなに

### 1. うごめく落ち葉 (地図中①地点)

直径 40～50 cm の枯れ葉のかたまりが盛り上がりうごめき、移動していく。落ち葉の季節、シイの落ち葉がたくさんある場所です。不気味な存在で、正体を見ると気味の悪さがいっそうつります。落ち葉を取り除けば、黒い、長くかたそうな毛がたくさん生えた毛虫のようなものの数百匹の集団です。



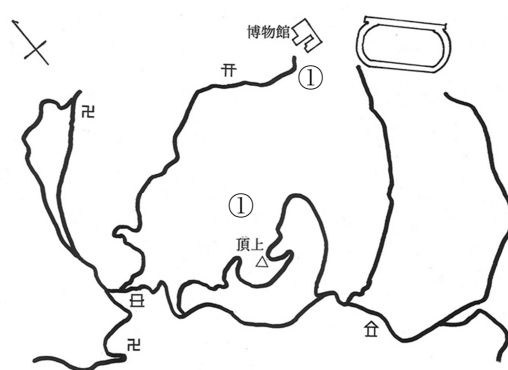
メスアカケバエ

これが、ケバエの幼虫です。ケバエ類は春先にだけ成虫が出て、日当たりのよい空き地で雄が群飛します。土中から羽化する雌を待つためです。幼虫は林の中や周辺で落ち葉や腐植を食べる掃除屋で、秋になると群れて移動します。異様な塊は集団作る動物の目的と同じで、大きく見せることで鳥などの捕食者から逃れるための防御行動と見られます。

晩秋に集団が出現しますので、遭遇すれば幸運です。



ケバエの幼虫の集団



### 2. 種子と子葉をみる

親から子どもが想像できるでしょうか。春、いろいろな植物の芽生えをみるのですが、名前がわかることはめったにありません。成長を待ち、何年後かにやっと何であったかわかるものもあります。手っ取り早く知るためには、種子の落ちている場所を覚えておくことです。種子は親に付いている段階で見てください。



種子のいろいろ

発生学では、受精卵が成長して一人前になっていく過程は、その生物の形態や機能などの進化を時間を短縮して示しているといえます。幼時は先祖の様子を現しているのです。写真のノグルミは変わった形の子葉から葉の構成がだんだん複雑になっていく過程がわかります。

#### ノグルミの葉の変容



①子葉



②本葉 1枚目は単葉



③④子葉数の増えた複葉へ

